

早稲田大学人間総合研究センターシンポジウム
認知症ケア向上のための支援者の支援
スウェーデンにおける取り組み

日時：2018年3月3日（土） 10時～12時

場所：中目黒GTプラザホール

講演講師：エルスマリー・アンベッケン **Els-Marie Anbäcken**

(マラーダレン大学准教授)

カースティン・アンビック **Kerstin Angvik**

(スウェーデンリンショーピン市認知症ケア開発者)

加瀬 裕子 (早稲田大学 人間科学学術院教授)

主催：早稲田大学人間総合研究センター

後援：目黒区

協力：目黒稲門会

共催：NPO 法人高齢者を支える学際的チームアプローチ推進ネットワーク

参加者：52名 目黒区の住民の方、社会福祉士、介護支援専門員、ボランティア等の参加があり、スウェーデンにおける認知症ケアについて、市民や専門職の期待の大きさが伝わってきた。当日はスウェーデン語には日本語で通訳が行われた。

まずはじめに **Linköping** (リンショーピン) 市の概要について市のイメージビデオを視聴した。リンショーピン市は南スウェーデンの中心部にあり、15万3000人の市民が住む急成長中の自治体である。スウェーデンで5番目に大きな地方自治体で、戦闘機・旅客機、IT、環境などの産業が盛んであり、その技術は世界水準の成功を収めている。平均年齢は39歳、登録帰郷は1万4500企業。ヨーロッパ屈指のサイエンスパークの一つであるミャーダヴィ・サイエンスパークには、技術革新や最先端の技術を象徴する大学があり、革新精神が根付いている。人口の約5分の1は65歳以上である。

次に **Mälardarlendaigakude** 高齢者のケアに焦点を当てて研究を行っている **Els-Marie Anbäcken** 准教授よりリンショーピン市の要介護高齢者のためのケアホームについて説明があった。1980年代の終わりから日本から数百人もの研究者がスウェーデンを訪問し、その取り組みを日本へ持ち帰ってきている。リンショーピン市での最初のサービスハウスである **Aspen** (アスペン) をはじめ、デイケア、ケアホーム、ホームヘルプや在宅介護サービスなどについて説明があった。特にリンショーピン市のケアとソーシャルワークの研究開発センターである **FOU** が行っている研究と実践のつながりは、高齢者介護を担うケアワーカーの実践的支援につながる取組であることを学ぶことができた。

次に **Linköping** 自治体の認知症ケア開発者であり、高齢者のケア、特に認知症ケアの豊富な経験を持っている **Els-Marie Anbäcken** 准教授からは、リンショーピン市における認知症ケアのためのラーニングセンター組織や連携について説明があった。良き認知症ケア

のため高齢者医療と介護を標準化するツール（尺度）や理論を使用していること、そのツールの一つとしてライフストーリーを理解することで、利用者のニーズをより深く理解することなどを学ぶことができた。講演後には会場の参加者から熱心な質問もあり、講師から丁寧な説明がなされ活発な議論が交わされた。ケアワーカーをはじめとした認知症ケアスタッフにとって大変効果的な研修方法とその実践結果について学ぶことができ、日本の福祉介護教育に取り入れるヒントにもなる大変有意義な研修となった。

<講師>

・ **Els-Marie Anbäcken** 准教授は、2014年以降、**Mälardalens högskola** 高齢者のケアに焦点を当てて研究を行っている。2006年から5年間に渡って、コーディネーターとして、日本とスウェーデンの老化とケアに関する研究を行っていた。2008年に関西学院大学人間福祉学部の専任教授として日本に移り、4年間に渡り老年学、生活終末期ケア、国際社会福祉の教育と研究を行ってきた。

・ **Kerstin Angvik** 氏は **Linköping** 自治体の認知症ケア開発者であり、高齢者のケア、特に認知症ケアの豊富な経験を持っている。**Linköping** の認知症ケアを向上するために、ラーニングセンターで10年間に渡って働いてきた。**Kerstin** は、重度の **BPSD**（認知症による行動心理症状）を有する人々を対象としたモバイル認知症チームでも働いている。